

[成果情報名]キンギョソウの無摘心栽培における栽植密度

[要約]キンギョソウの無摘心栽培では、7月播種と9月播種の切り花で栽植密度にかかわらず産地の最上位階級を確保できる。2月播種では栽植密度の影響は小さい。

[キーワード]キンギョソウ、無摘心栽培、栽植密度

[担当]静岡農林研・伊豆農業研究センター

[連絡先]電話 0557-95-2341、電子メール agriminamiizu@pref.shizuoka.lg.jp

[区分]関東東海北陸農業・花き

[分類]技術・普及

-----  
[背景・ねらい]

キンギョソウの無摘心栽培において、栽培時期別に適する早晩性の品種を使用して栽植密度が生育や開花特性に及ぼす影響について検討し、産地の作型開発における基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 7月播種：'ヴェルン'では、密植区において発蕾日、開花日が遅く、草丈と節数が増加し、切り花重は減少する。'ポトマックアップルブロッサム'では、密植区において切り花重が減少する（表1）。
2. 9月播種：'メリーランドピンク'では、密植区で発蕾時草丈は高くなるが、切り花重は減少する。'オークランド'では、密植区において開花が遅くなるとともに、開花時草丈が低く、切り花重も減少する（表2）。
3. 2月播種：'ヴェルン'では、栽植密度による開花時期および切り花品質への影響はみられない（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 栽植密度は、株間 10 cm、1 列 8 株植えを基本に条間 20 cmの疎植区(50 株・m<sup>-2</sup>)と条間 10 cm(100 株・m<sup>-2</sup>)の密植区の 2 処理区とした。
2. 本試験は、暖地の栽培を基準に設定したため、これ以外の地域、作型では特性の一部が異なる場合も想定される。

表1 栽植密度の違いが秋開花のキンギョソウにおける開花特性に及ぼす影響（7月1日播種）

品種名	型	栽植密度 <sup>z</sup>	発蕾日	開花日	到花日数 <sup>y</sup>	発蕾草丈 (cm)	開花草丈 (cm)	節数 (節)	切り花重 (g)
ヴェルン	疎植		9月3日	9月19日	81 ± 3	63	108	50	61
	密植		9月9日	9月24日	86 ± 3	70	114	56	48
有意性 <sup>x</sup>			**	**	**	**	*	**	**
ポトマックアップルブロッサム	疎植		9月15日	10月2日	93 ± 3	67	126	63	92
	密植		9月14日	10月2日	93 ± 5	69	127	66	61
有意性 <sup>x</sup>			NS	NS	NS	NS	NS	NS	**

<sup>z</sup> 株間20 cm：条間10 cm × 株間20 cm・8株植え，株間10 cm：条間10 cm × 株間10 cm・8株植え（第1図）

<sup>y</sup> 到花日数は，播種～開花までの日数（日数 ± 標準偏差）

<sup>x</sup> t検定，\*\*：1%水準で有意，\*：5%水準で有意，NS：有意差なし

表2 栽植密度の違いが冬開花のキンギョソウにおける開花特性に及ぼす影響（9月22日播種）

品種名	型	栽植密度 <sup>z</sup>	発蕾日	開花日	到花日数 <sup>y</sup>	発蕾草丈 (cm)	開花草丈 (cm)	節数 (節)	切り花重 (g)
メリーランドピンク	疎植		1月5日	2月21日	153 ± 3	41	118	37	128
	密植		1月3日	2月19日	151 ± 6	47	119	37	86
有意性 <sup>x</sup>			NS	NS	NS	***	NS	NS	***
オーランド	疎植		1月3日	2月22日	153 ± 4	39	127	36	134
	密植		1月8日	2月27日	158 ± 11	37	116	37	77
有意性 <sup>x</sup>			NS	*	*	NS	***	NS	***

<sup>z</sup> 第1表参照

<sup>y</sup> 第1表参照

<sup>x</sup> t検定，\*\*\*：0.1%水準で有意，\*：5%水準で有意，NS：有意差なし

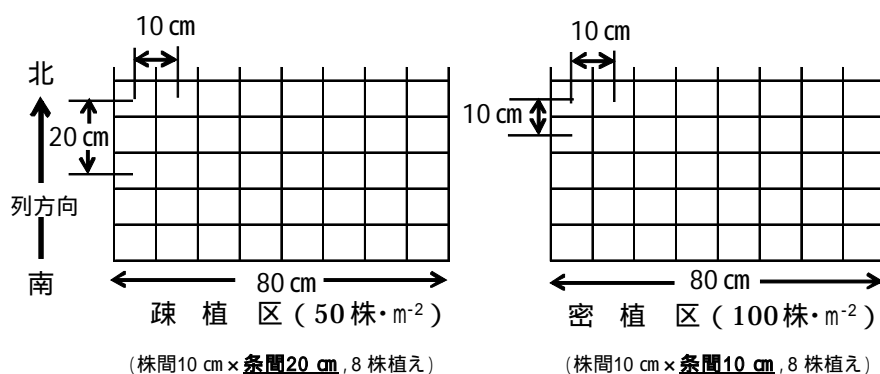
表3 栽植密度の違いが夏開花のキンギョソウにおける開花特性に及ぼす影響（2月17日播種）

品種名	型	栽植密度 <sup>z</sup>	発蕾日	開花日	到花日数 <sup>y</sup>	発蕾草丈 (cm)	開花草丈 (cm)	節数 (節)	切り花重 (g)
ヴェルン	疎植		5月27日	6月20日	124 ± 9	47	88	37	43
	密植		5月25日	6月20日	125 ± 9	48	94	37	39
有意性 <sup>x</sup>			NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS

<sup>z</sup> 第1表参照

<sup>y</sup> 第1表参照

<sup>x</sup> t検定，NS：有意差なし



[その他]

研究課題名：キンギョソウの周年生産体系の確立

予算区分：県単

研究期間：1999年度

研究担当者：稲葉善太郎

発表論文等：稲葉善太郎ら(2010). 育苗容器の深さおよび育苗期間の違いが開花および切り花品質に及ぼす影響. 園学研. 9(2) 165-170.